

話し合い活動の手引き

§ 4 議題を決める

学級会活動の話し合いの成果があがるかどうかは、議題選定の是非によって決まるときえ言われています。子どもたちにとって話し合う必然性のある議題をいかに選定していくか、非常に大切なものだと考えます。担任として適切な指導が求められる場面です。

■ 議題を選ぶ視点

子どもたちから出された議題案を選ぶ際、担任は「どのような視点を持って指導を行えばよいか」について、まとめてみます。

その1 学級の多数が早急な解決を望んでいる議題

ここでの視点は「課題性・緊急性」です。子どもたちにとって話し合う必然性が最も高いものだといえるでしょう。例えば、男女の仲がうまくいっていない状況で、子どもたちの中に「男女の仲をどうにかしたいなあ」という気運が高まってきた時、「みんなで協力し合って料理コンテストをしよう」というような議題は、タイミングのよい議題だと言えると思います。このような議題は、議題化する際に全員を納得させることができやすいし、また、学級の世論を高めやすいものでもあるのです。

その2 学級内の問題で、学級のみんなに関係がある議題

ここでの視点は「相互性・協同性」です。議題案として出されたものでも、学級中の数名にかかわるようなものであれば、学級会の議題として取り上げることは難しいです。ただし、そこで出された議題を全員で考えてほしい場合には、担任の方で手続きをとって議題化することも可能です。例えば、「みんなが気持ちよくなる掃除の仕方を考えよう」というような議題にし、数名の問題を学級の問題として取り上げるのです。

その3 決めたことを具体的に実行できる議題

3つめの視点は「現実性・具体性」です。解決のための手続きにおいて、始めから大人の手助けが必要であることがわかっているものについては一考を要するでしょう。これは、後で述べる「自治の範囲を超えたもの」については、子どもたちで話し合うことは出来ません。

その4 創意・工夫の余地がある議題

4つめの視点は「創造性」です。子どもたちの話し合いを活発化するためには、一人ひとりがいろいろな意見を出せるものがよいと考えます。例えば「サッカー大会の計画を立てよう」という議題案が出された場合、提案者や計画委員会の子どもたちとよく話し合い、学級の問題を解決する方向で「女子が活躍できるようなサッカー大会の計画を立てよう」という議題にします。「女子が活躍できる」という条件をつけることによって、創意工夫のある意見が多く出されることが期待できるからです。

その5 児童の発達段階に即した議題

5つめの視点は「発達性」です。低学年では身の回りのできごとにかかわる議題を選ぶようにします。高学年になれば、「学級生活を向上発展させる」という観点から議題を選ぶことも大切になってきます。

■ 議題を選ぶ

議題を選ぶ視点をもとに、計画委員の子どもたちと議題を選びます。その際、次のような議題選定カードを準備しておくといよいでしょう。

選定の視点 出された議題	○今すぐ解決しなければならない問題か	○学校の全員に関係のある問題か	○自分たちの力で解決できる問題か	○工夫できそうな問題か	○学校のくらしがよくなる問題か	議題	どこで解決するか ○議題に取り上げる ○係へ ○帰りの会 ○先生にお願いする ○委員会へ ○代表委員会へ
夏休みの生活について	×	○	×	×	×		先生にお願いする
水飲み場の使い方	○	○	○	×	△		代表委員会 保健委員会
班ごとの新聞コンクールをしよう	△	○	○	○	○	○	2学期初めの学級会の議題にする
学級オリンピックをしよう	○	○	○	○	○	○	次の学級会の議題としたい
朝の会の歌を月ごとにかえたい	○	○	○	○	○		ミュージック係にお願いする

■ 自治的活動の範囲外として押えておくこと

学習指導要領には、「自発的・自治的活動」と表記されています。この「的」には、「教師の適切な指導の下に」という条件がついていると考えてください。そこで、「自治的活動の範囲を超えるもの」にはどのようなものがあるのかを知っておくことも大切です。

- 児童の健康・安全に関すること
- 児童の罰に関すること
- 金銭の徴収や物品の購入などに関すること
- 教育課程に関すること
 - ・学習時間割り
 - ・学習内容
- 学校のきまりや設備の利用に関すること
- 校外生活に関すること
- 一部の子の人権を傷つける結果が予想されること

上にあげたものは、最終的に教師が判断し、決定しなければならないものです。そのようなものについては、子どもの発達段階なども考慮して、教師の適切な指導を加えることが大切であると思います。

■ 議題化の作業とその後の対応

子どもたちが提案した議題案の中には、問題点のはっきりしないものや、何を話し合っているのか分からないものも多くあります。その場合、問題を議題化する作業が必要になってきます。そのために、議題案を出してくれた子どもにもっと詳しくたずねるなどして提案の裏に潜んでいる学級の実態をはっきりさせておく必要があります。

具体的には、次のようなことです。

- * 今、何が問題なのか（具体化）
- * なぜそれが問題なのか（理由）
- * どうしてその問題がおこったのか（原因）
- * 実態はどうなのか（実態、現状）
- * この問題をどうしたらいいのか（解決への見通し）

議題が決定したら、提案者に対して「お礼状」を出させます。また、取り上げられなかった議題を出してくれた人にも、その理由を明記して知らせましょう。決定した議題は帰りの会などで全員に報告します。